一六八〇	延宝	八年	下荒井蓮華寺西裏の大五輪の古いのにこの年の銘がある。
一六八一	天和	元年	大川大洪水で荒れる。
一六八三	天和	三年	上米塚新田の開拓者四代小池義利の代に洪水で村が流失、三年計画で再興に当る。
〃	〃		高田の田中家郷頭になる。
一六八五	貞享	二年	中荒井堰開かれる。（上米塚にて）
一六八九	元禄	二年	中荒井村風俗帳の書上げあり。田中郷頭のこの年の記録に「郷頭勤方の事」その他あり。
一六九五	元禄	八年	和泉の諏訪神社古く信濃国本宮より勧請、この年、この地に鎮座。
一六九八	元禄十二年		この年まで大沼郡とある。ようやく会津郡となる。
一七〇四～一〇	宝永	の頃	七月二十七日大川大氾濫
一七一六～三五	享保	の頃	真渡輝井明神の別当滝本院司るとみえる。
一七三六	元文	元年	この頃まで今和泉館跡に関出雲守の子孫、総左ェ門住むという。
一七四一	寛保	元年	軽井沢銀山休み、下荒井の宿場さびれる。
一七四三	寛保	三年	出尻地蔵尊にこの年の銘あり。
一七五六	宝歴	六年	この年田村山養泉院が観音の来由を彫った版木がある。
一七六五	明和	二年	江川太郎左ェ門が切支丹類族を書上げた記録あり。
一七六六	明和	三年	田村山観音堂建立の棟札あり。
一七八一～八八	天明	中	館の観音を水戸の漆細工が塗りかえる。
一七八八	天明	八年	田村山古墳灰塚から出土品あり。
			代官職を置く。高田代官所が定められ、郡署をおき高田は中荒井奉行配下となる。